

# だいじょうぶ？

## 無症候性心筋虚血

心臓の筋肉に血流を送っている血管（冠状動脈）が細くなったり（狭心症）、詰まったり（心筋梗塞）して心臓に十分な血液を送れなくなる状態が心筋虚血の状態です。通常狭心症は運動をしたときに胸痛が出現し安静で改善します。また心筋梗塞は非常に強い胸痛が30分以上続きます。しかしながら糖尿病の方や高齢者は心臓の自律神経障害のため心筋虚血が起こっても胸痛が出現せず、わかりにくいことがあります。この状態を無症候性心筋虚血といいます。無症候性心筋虚血は胸痛がなくても心筋虚血の状態ですので胸痛のある心筋虚血と予後に関しては差がないか、予後が悪いとも言われています。無症候性心筋虚血の診断は胸痛がないため診断が難しいですが、ちょっとした症状を主治医の先生に訴えること

姫路市医師会  
スポーツ医学  
委員会

森 田 雅 人  
森田内科・循環器科



で手掛かりになります。その症状は今までになかったような呼吸困難感や胸の詰まる感じです。さらに心筋梗塞であればそのような症状に加えて冷汗などの症状も伴いますのでその場合は救急受診も考慮してください。糖尿病は心筋虚血の危険因子ですので心筋虚血の頻度は糖尿病の方が通常の方の3倍になると言われています。特に糖尿病の方は今までになかったような呼吸困難感や胸の詰まる感じがあれば主治医の先生に伝えて頂くことや医療機関を受診して頂くことが大切です。

